

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700553		
法人名	医療法人社団 宇根本会		
事業所名	グループホームなごみ(東ユニット)		
所在地	岡山県浅口郡里庄町新庄2920		
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の全体的なスキルアップを図る為に法人内で研修会を行なっています。内容としては介護過程や虐待、スタッフの接遇マナーについてです。他にも外部の研修にも参加して知識や技術の向上を図っています。  
 毎月の行事の際には、地域のボランティアの方々の協力を得て様々な催しが出ています。また季節感が感じられるように花見や夏祭り、秋祭りの神輿を見たりクリスマス会も開催しています。  
 又、体調面においては、医師との連携が24時間体制で取れており、いつでも対応できご家族の方も安心して頂ける様に支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_i_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_i_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28 年 7 月 21 日		

事業所はJR里庄駅の南側の住宅地の中にある。近くには遊歩道や桜並木もあり利用者の散歩等の利便性が高い。隣接している畑の野菜や玄関周りの草花の手入れが行き届き、生活感を出している。協力医は休診日以外は毎日、往診している。また、夕方と夜間には利用者一人ひとりについて事業所から医師に報告するなど、医療面の安心感を家族・利用者にもたらしている。市町村とも日常的にきめ細やかな連携をしている。また、多種のボランティアを定期的に入れるなど、地域とも積極的に交流している。利用者は持っている力を使い、それぞれの役割を担って暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝8時45分定時に、なごみ事務所にて「なごみ基本理念」を職員で斉唱することで1日の始まりとし、その場で管理者から連絡や注意事項を利用者の状況・状態などを伝えています。	事務所と各ユニットのキッチンに理念を掲示するとともに、毎朝、引き継ぎの前に唱和している。また、日々のケアの中で確認し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の案内があれば、出来るだけ参加させて頂いている。PTA主催の資源回収、秋祭に地区の子供たちが神輿を担いで来所してくれている。ホームでは、お誕生日会、お楽しみ会などにボランティアの方が見えられ、大正琴やフラダンスなどを披露してくださっています。ご家族にもできるだけ参加して頂くために、事前に連絡をしています。地域ボランティア「忍にんクラブ」の方が毎月1回1時間ほど歌や体操をしに来所され利用者の方と、楽しく過ごして下さいます。又、散歩時には近隣の方や子どもさんたちと挨拶や会話を交わすなどの交流もあり、利用者の方にも笑顔が見られます。	地域から案内のある行事に参加したり、大正琴やフラダンスをはじめ、多種のボランティアを定期的に受け入れ、利用者とは交流している。また、秋祭りには子ども神輿が訪れたり、事業所の夏祭りには近隣の人も参加するなどのつき合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議において、行政担当者や民生委員、地区の分館長など地域の方に認知症の方を取り巻く環境、それに対する支援についての内容などをお伝えして、ご理解を深めて頂いています。また、行政より運営推進会議時に逐一法律の変更の説明や地域での取り組みなどの説明があります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、議事録を作成し、意見や疑問点、要望を掘り下げ、次回開催までに評価及び問題解決に繋げ、報告できるように職員で話し合いを進め、サービス向上により努めています。	健康福祉課・包括支援センター・分館長・民生委員等が参加し、2ヶ月に一度、開催している。内容は利用状況・研修報告・行事の報告と計画などである。出された意見は、防災マップの活用方法等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域行政担当者との連携を密にし、情報の収集や指導を仰いで、ケアサービスの向上に役立っています。また、実地指導を受けその結果、改善すべき点などを指導頂きケアの質の向上及び環境整備に努めています。	統括管理者が窓口となり、運営推進会議をはじめ日常的に細やかな連携をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者の言葉や気持ちに心を配り、常に見守っているが、利用者の方が時折落ち着かず、脱出(帰宅)願望がある場合、ご家族に説明の上、一時的にリビングの出入り口などを施錠し事故の発生を未然に防ぐ措置を行うことがあります。又、夜間ベッドから降りようとされたり、危険な動きが見られる場合も、ご家族に説明、承諾を得た上で、ベッド柵を使用する場合があります。安全安心を第一に利用者の話を聞き、不穩の原因を探り、時には、ご家族にご協力を頂き、利用者の希望を叶え、不安を取り除くようなケースもあります。また、(身体拘束ゼロへの手引き)を参考にして拘束をしないケアについての話し合いをしています。	週1回のカンファレンス時に話し合い、職員間の共有を図っている。不穩や転倒予防等、止むを得ない場合は、家族の了解を得て実施する場合もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員全体が基本理念を念頭に言葉の虐待、身体的虐待、心理的虐待がないか、個人の尊厳や自由について考え、温かみのある関わりができています。職員同士お互いのケアに注意を払っています。又、法人内で虐待防止の研修や例題を読みスタッフで話し合い問題点などを考え発表するケースカンファレンスなどに参加して知識を付けて問題意識を持ち虐待の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が学ぶ機会は、設けられてはいませんが、成年後見が必要なケースがあるときは、管理者などへすみやかに連携が出来るよう、心掛けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金や起こりうるリスク、重度化や、看取りについての対応方針医療連携体制について、何事にも詳しく説明を行い、疑問点などの説明をし十分な話し合いの上で理解、納得してもらってから契約をするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、日頃の会話や、コミュニケーションの中で、ご家族は面会時や電話であつたり、機会を捉え、職員全員が気軽に問いかけ、何でも言ってもらえるように雰囲気作りをしています。また、面会時には利用者の状態を報告しこちらからコミュニケーションを取るよう心がけています。	日々のケアや家族の面会時等に意見を聞くようにしている。出された意見は、食事の献立に反映したり、外出の在り方について検討するなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望、意見を聞くように心掛けているが、不満や苦情を把握しきれていない可能性がある。出来るだけ日頃からコミュニケーションを図るように努め、職員の意見やアイデアを、取り入れるようにしている。また、毎週木曜日のカンファレンス時に利用者の状態などを報告して話し合える場として活用しています。	カンファレンスや日々の会話、個人面談、職員アンケートから職員の意見等を把握するようにしている。出された意見は、ゴミステーションの修繕等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の就業環境を把握しており、職員各自のやりがい、向上心や、やる気を持って働けるよう、職員の資格取得に向けて支援や、健康管理に気をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を焼く2か月に1回のペースで開催しています。今年から必須研修として認知症の理解・接遇マナー・虐待総論・事例を使った虐待のケースカンファレンスが開催されています。可能な範囲で参加し向上に努めています。また、外部の研修にも参加出来るように年間の研修参加の予定などを立てていますが上手く参加できていない現実があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、地域の交流会、お誕生日会の交流など積極的に行っています。研修会に参加して、他施設の職員と意見交換したりしてサービスの質の向上に役に立てております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者、ご家族の思い双方に耳を傾けお互いに信頼関係が得られる様、職員が寄り添い利用者が笑顔で居られるように関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方の本人への思いを大切に、しっかり話し合い、受け止めた上で支援に繋げて行けるように職員同士でも話し合いをして支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の方と繰り返し相談することで密な関係を築き利用者の本人への支援を含め、他のサービスの利用も視野にいれて、本人様に合ったサービスを見極められるように行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々穏やかに過ごせる様に関係を築いています。人生の先輩から教わることもあります。暮らしを共にするもの同士、笑顔を決やさない様な雰囲気作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の新たな発見、気付いたことを来所時に伝えつつ、体調に変化、急変、怪我等があれば電話連絡しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が手紙を出されるお手伝いをしたり、遠方からの来所者が来られるくらい人望の厚い方がいらっしゃるので関係が途切れないように支援しています。身だしなみにも気をつけ、髪が伸びれば美容師の方をお願いしたり、又、外出時に行きつけの所へ行かれる方もいらっしゃいます。	家族や知人等の面会時に、くつろいで話せるよう配慮したり、関係継続のための声かけをしている。また、利用者が外部に手紙を出すための支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に、過ごすこともあります。皆で輪になりお互いに楽しく暮らせる場や雰囲気作りが出来るように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからも、職員が気軽に声を掛けたり、声掛けして下さったりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が出来る方には、しっかり話を傾聴し、笑顔で喜んで頂けるように支援し又、困難な方には利用者のさりげない行動や会話の中や表情から思いや意思を汲み取るようにしています。	日々のケアを通して、利用者の思いを聞くようにしている。耳の遠い方には筆談等の配慮もしている。困難な場合は、家族との連携等、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人から情報を頂きより良いケアに繋がるよう努めています。プライバシーに配慮しながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりの体調管理、状態を記録に残し、朝、夕の申し送り、連絡帳を活用し、職員同士で情報交換し、出来る範囲で利用者の状態に合わせて介助するようにしています。又、毎週木曜日にカンファレンスを行い両ユニットの譲歩交換もしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人別のケアチェック表を活用し、記録に残してそれを基に意見交換、カンファレンスを行い、援助に繋げています。	家族からの情報を基に面談し、管理者が暫定案を作成後、家族と連携している。3ヶ月間は様子を見て、担当者を中心に見直している。見直しは3ヶ月を原則としているが、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、実施していますが記録を活かしきれず、実践に繋がらない事もあります。新たな課題が出来た時には、見直しを行いその人に合った介護計画の作成をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のご家族が安心して暮らしていくための必要なサービスを臨機応変に提供し、お誕生日会などの行事には、案内状を出し、ご家族の方にも参加して頂き、一緒に食事をしてもらえる少しでもコミュニケーション取れるように支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続していくために、ボランティアの方の情報を得て、ご協力頂いている。又、レクリエーション用品の貸し出しなど、地域にある資源を利用させてもらったり、相談に乗ってもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入所前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族の依頼により通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうなど、複数の医療機関と関係を蜜に結んでいる。主治医とは定時の連絡、急変時には、24時間の対応体制が整っています。	利用開始時に多くの利用者は協力医をかかりつけ医としている。ほぼ毎日、協力医の往診があり、家族や利用者に医療面の安心感をもたらしている。また、毎日2回、利用者の状況を事業所から医師に報告もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態観察に応じた支援を行えるようにしています。些細な変化や気づきにも丁寧に対応で利用者や介護職員のよき相談相手となっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、又、早期に退院できるよう情報交換しています。入院中には、不安や混乱がないように職員が見舞うようにしています。ご家族とも、回復状況な情報交換しながら速やかに退院支援に結びつけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の容態の悪化時には、早期に医療機関と、ご家族との話し合いが出来るように連携し、予後について利用者のご家族に理解を得て頂き、終末期に向けての方針など、利用者のご家族にとってどうあったら良いのか、ご家族の心の変化に配慮しながら利用者が穏やかな最後を迎えられるよう支援しています。	利用開始時に事業所として出来ること・出来ないことを説明している。看取り経験が豊富で、医師・家族・事業所が連携し、チームとして支援する体制を整えている。	看取り後のカンファレンスについて、全職員への周知・伝達態勢の充実に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変や事故発生に備え、地域の消防署の協力を得て、応急手当や蘇生法を受講しています。夜勤帯の緊急時対応についてマニュアルを作成し、皆で周知し実際の場面で活かせるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設設備の点検は、三宅消火器に定期的に依頼し、消防署の定期査察において不備がないかチェックしてもらい、日頃から防災を心掛けています。マニュアルを作成し、年2回、利用者と共に避難訓練を実施しています。地域の協力体制についても地域運営推進会議で協力を呼び掛けています。	年2回、避難訓練を実施している。訓練時の地域の参加要請について検討している。消火設備の設置確認や使用方法を実践している。	訓練に消防署の参加を要請するなど、内容の充実に期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての敬意を払い、利用者それぞれの生活観の違いや、本人の気持ちを考えながらさりげないケアを心がけています。	利用者が出来ることはなるべくやってもらう方針であり、自尊心を尊重しつつ、傷つけないケアに努めている。また、役割を持って仕事をしてもらっている。耳の聞こえに応じた声かけ等の工夫もしている。	トイレに置いてある替え下着の記名について、より細やかな配慮に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい方には「これから〇〇します、よろしいですか？」とその都度説明し、表情を読み取ったりしながら、本人の意向を確かめる働きかけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のライフスタイル、体調、気分などを把握し、なるべくそれぞれのペースに合わせた支援を行えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示される方にはご希望の服を着て頂いています。自己決定が難しい方は、なるべく本人の好みや、その人らしさを大切にしながら支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの好み、体調に合わせて量、メニューにしたり、食事の際はなるべく職員も一緒にテーブルを囲み、話をしたりしながら食事をし和やかな雰囲気大切にしています。	朝は職員が手作りし、昼と夜は法人内の厨房で作ったものを配食している。献立に利用者の希望を取り入れたり、行事食や仕出しを頼んだりする等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分摂取量を把握し、排泄回数や、毎月の体重測定などから一人ひとりの状態を観察し、足りないときは補助食品や、嗜好品で補っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方には声掛け見守りし、義歯のみの方、自力で出来ない方にはハミグットを使用し口腔内の清潔保持をしています。又、変わった事があったり、本人希望で歯科医院へ往診をお願いしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレへの声掛け、誘導で排泄出来るようにしています。リハビリパンツ・パットも利用者にあった物や使い心地の良い物を使用するようにしています。	見守りと声かけにより、昼間は利用者の半数がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりに応じた対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンをチェック表で確認しながら、水分摂取をして頂き頑固な便秘ならば状態に合わせて主治医に処方して頂いている排便促進剤・下剤を服用し、スムーズな排便が出来るようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方向的に決めずに利用者のその日の体調や希望に合わせて入浴していただいています。又、入浴拒否の方は翌日にしています。入浴できない日には、清拭・足浴・手浴・ドライシャンプーで対応しています。	週2~3回、入浴支援を実施している。時間は状況に応じて柔軟に対応している。ユニットを越えた介助の支援態勢もある。嫌がる人については、声かけや曜日の変更等で対応し、清潔の保持に努めている。	全ての職員が安心して入浴介助の出来る体制・環境づくりに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴・レクリエーションなどの日中の活動をし、生活リズムを整えるように努めています。利用者ペースで昼寝をしたり、夜寝付けたい時には話し相手になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個々の薬配ケースに貼付スタッフが常に見てわかるようにしています。処方の変更があった時には連絡ノートに書き、職員全員がわかるようにしています。服薬時には、職員が口の中に入れて、渡し服用できているか確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションに参加して頂き、体操をしたり、歌を唄ったり、ゲーム、言葉遊びなど工夫をし楽しんでいただいています。又、おしぼりや洗濯物量など出来そうなことを頼みお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が利用者の体調に合わせて散歩に誘い、気分転換を図っています。又、ご家族の協力もあり季節の行事、花見・秋祭りなどに見物に出掛けています。天気の良い日には、外に出てレクリエーションしたりおやつを食べたりしています。	事業所の周囲や近くの遊歩道を散歩したり、野菜の収穫等で日々外出している。困難な場合は、事業所の前で、おやつを食べたり、歌を歌うなどしている。また、家族の協力を得て、花見等に出かけたりもしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から当座の現金を預かり、必要時の買い物に使っています(散髪代)ほとんどの利用者はお金の管理が出来ず職員が金銭出納帳に記入しご家族の確認を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話をしたい方、取次ぎや伝言を頼まれるとタイムリーに対応し希望を叶えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど共同生活空間が判断しやすいように目印を扉に表示したり、日中の採光、夜間には適当な明かりで転倒防止をし、室温、温度にも配慮して快適な空間作りをしています。キッチンから料理の匂いがし、テレビの音など生活感があふれています。壁には手作りのカレンダーで日にちを判断してもらるようにしています。ホームの庭にはグリーンカーテンや花々が咲き野菜作りもしています。玄関には季節の花を飾り、リビング壁面には季節ごとの大きな貼絵を掲示しています。	居間と廊下は広くて明るく、音・光等が適切に管理され、空気の淀みもない。観葉植物を置いたり、壁には利用者や家族の作品・写真等を飾り、生活感を出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルや椅子、ソファを配置し自由に好きな場所で寛げるようになっています。食事時には自分の席が用意してあるので、落ち着いて食事ができます。お茶の時間やレクリエーションが好きな場所で楽しめます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に表札を掲げ可愛い目印の飾りや写真もつけ明るい雰囲気になっています。部屋には個人の馴染みの家具や思い出の品を置いたり好みの飾り付けができており、疲れを癒したりプライバシーの確保ができています。利用者自身の生活スタイルに合うように部屋には馴染みの家具、家族の写真などが飾られ出来るだけ家と変わらない生活が出来るよう配慮しています。部屋には洗面台もあり歯ブラシや化粧品など整理しています。	居室ごとに洗面台が設置され、利用者の利便性に配慮している。鉢・雑誌・テレビ・携帯電話等が持ち込まれ、各利用者のらしさが出ている部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で車椅子を操作できる利用者にホーム内の移動が安全に出来るよう、ゆったりとしたスペースがあり職員も見守りしやすく、見通しが利くような間取りになっています。居室では自力操作がしやすくベッドへの移動や必要な物に手が届きやすいよう、ベッドの位置や家具の配置も利用者と一緒に相談し決めており、自立した生活が送れるように工夫しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372700553		
法人名	医療法人社団 宇根本会		
事業所名	グループホームなごみ(西ユニット)		
所在地	岡山県浅口郡里庄町新庄2920		
自己評価作成日	平成28年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_i_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_i_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28 年 7 月 21 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員の全体的なスキルアップを図る為に法人内で研修会を行なっています。内容としては介護過程や虐待、スタッフの接遇マナーについてです。他にも外部の研修にも参加して知識や技術の向上を図っています。  
 毎月の行事の際には、地域のボランティアの方々の協力を得て様々な催しが出ています。また季節感が感じられるように花見や夏祭り、秋祭りの神輿を見たりクリスマス会も開催しています。  
 又、体調面においては、医師との連携が24時間体制で取れており、いつでも対応できご家族の方も安心して頂ける様に支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所はJR里庄駅の南側の住宅地の中にある。近くには遊歩道や桜並木もあり利用者の散歩等の利便性が高い。隣接している畑の野菜や玄関周りの草花の手入れが行き届き、生活感を出している。協力医は休診日以外は毎日、往診している。また、夕方と夜間には利用者一人ひとりについて事業所から医師に報告するなど、医療面の安心感を家族・利用者にもたらしている。市町村とも日常的にきめ細やかな連携をしている。また、多種のボランティアを定期的に入れるなど、地域とも積極的に交流している。利用者は持っている力を使い、それぞれの役割を担って暮らしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に 事業所の基本理念を管理者や職員が、共有して意識づけるために出勤している職員全員で読み上げをしています。	事務所と各ユニットのキッチンに理念を掲示するとともに、毎朝、引き継ぎの前に唱和している。また、日々のケアの中で確認し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校(運動会・学芸会)地域(廃品回収・掃除・祭り等)に、体調を見ながら積極的に参加し、施設の行事などに案内し、遊びに来て頂いています。	地域から案内のある行事に参加したり、大正琴やフラダンスをはじめ、多種のボランティアを定期的に受け入れ、利用者で交流している。また、秋祭りには子ども神輿が訪れたり、事業所の夏祭りには近隣の人も参加するなどのつき合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議を開催し、認知症の環境を理解して頂き、色々な支援の仕方を伝える様に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現状報告をし、質問・意見・要望を受けて検討し、取り上げた課題について実施状況、結果を報告しています。	健康福祉課・包括支援センター・分館長・民生委員等が参加し、2ヶ月に一度、開催している。内容は利用状況・研修報告・行事の報告と計画などである。出された意見は、防災マップの活用方法等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当や支援センターの方との連携をとり、推進会議に参加をしてもらって、その都度ニーズを伝え 協力・アドバイスしてもらえるようにしています。	統括管理者が窓口となり、運営推進会議をはじめ日常的に細やかな連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、外出しようとする利用者にはさりげなく声掛けし、見守りしています。臥床時転倒の危険性のある方の様な緊急やむをえない身体拘束の説明をし理解して頂きご家族の方に署名して頂いています。	週1回のカンファレンス時に話し合い、職員間の共有を図っている。不穏や転倒予防等、止むを得ない場合は、家族の了解を得て実施する場合もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内でも虐待防止の研修を行い、その後に事例検討会が行われ 課題や問題点が無いかを再確認出来るようにしています。カンファレンス時にもお互いのケアを見直し、申し送りし話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要なケースが、今までに無かった為 詳しく理解をしていない職員もいると思われるので勉強会などをし、対応出来る様にしていきたく思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・看取り・重度化・個人情報保護等を丁寧に時間を摂り説明を行ない、納得し理解されて契約を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時や推進会議に参加して頂いて、質問・意見・要望を頂ける様にして、カンファレンス・ミーティングを行ないいかしていける様になっています。	日々のケアや家族の面会時等に意見を聞くようにしている。出された意見は、食事の献立に反映したり、外出の在り方について検討するなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度個別評価あり、意見・要望などを記入して それをもとにして個人面談し、職員の意見・要望を取り入れる様にしています。	カンファレンスや日々の会話、個人面談、職員アンケートから職員の意見等を把握するようにしている。出された意見は、ゴミステーションの修繕等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験をいかしてそれに見合った、研修や資格取得の支援をし、取得後は給与等に反映されている。年に一度健康診断(夜勤者は2回)を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所では今年より、職員の一人一人の全体的レベルアップを図る為の研修会を行なっています。受けられなかった研修を数回に分けて受けれる様に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の関連業者の主催される研修会に参加したりして、情報交換をしていかなることがあればけんとうして、サービスの向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者のご家族の思いを傾聴し、お互いに信頼関係が得られるようし、職員が寄り添い利用者が笑顔で過ごせるよう関係づくりにつとめている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、本人の意向を大切に、しっかり話し合い、受け止め支援を見極められるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と繰り返し相談する事で密な関係をきずき利用者本人への支援を含め見極められるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかな日々を過ごせるように 人生の先輩から多くの事を教わる事があります。暮らしを共にするもの同士心穏やかに過ごせるように努めています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の変化等、来所時に伝えつつ、体調等の変化があれば電話連絡しています。中々面会に来られないご家族の方には、電話連絡をしたりして、関係が途切れない様にしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、近所の人々の訪問があるので 共にレクリエーションに参加されるなどされ、楽しい時間を過ごしています。身だしなみを整えるために行きつけの美容院に行ったり、来所してカットをして頂ける様におねがひしています。	家族や知人等の面会時に、くつろいで話せるよう配慮したり、関係継続のための声かけをしている。また、利用者が外部に手紙を出すための支援もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別で過ごす事もありますが、レクリエーション時等で、皆で集まりお互いに楽しく暮らせる場を提供出来るようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者、かぞっくの方に、行事等の連絡をし、相談があった場合には出来る範囲で対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の言葉、表情などで真意を理解するようにしている。意思疎通の困難な方はご家族などから情報を得るようにしています。	日々のケアを通して、利用者の思いを聞くようにしている。耳の遠い方には筆談等の配慮もしている。困難な場合は、家族との連携等、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族面会等で来られる友人、利用者の会話の中で、プライバシーに配慮しながら、利用者への理解、把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り、記録、バイタルチェック表 利用者への声掛けで、状態を把握し介助の仕方を考え工夫しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の思い、意見等を聞き希望に添えるように 職員間で意見を交換し、アセスメントを含めた モニタリング・カンファレンスを行なっています。	家族からの情報を基に面談し、管理者が暫定案を作成後、家族と連携している。3ヶ月間は様子を見て、担当者を中心に見直している。見直しは3ヶ月を原則としているが、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、食事・水分量・排泄・バイタル等、日々の暮らしの様子、エピソード等を記録し、新たな課題が出来た時には見直しを行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会、月に応じた行事を計画し、家族・地域の方々などに案内状を送付し、参加して頂き 楽しく過ごして頂ける様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域推進会議を定期的に開催し参加者から、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いています。2か月に1度ボランティアに来て頂いて誰かの話相手になって頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力の他、入所からのかかりつけ医の診療を受診出来る様に 本人・家族の希望・依頼により訪問診療に来てもらっています。主治医とは定期連絡、急変時には、24時間対応の連携ができています。協力医以外のかかりつけ医の場合は受診は家族にお願いしています。	利用開始時に多くの利用者は協力医をかかりつけ医としている。ほぼ毎日、協力医の往診があり、家族や利用者に医療面の安心感をもたらしている。また、毎日2回、利用者の状況を事業所から医師に報告もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえるように些細な表情の変化も見逃さないように対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療が出来るように情報交換、又不安や混乱が無い様に職員が見守りしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の様態悪化時には、早期に主治医とご家族が話し合いが出来る様に連携しています。終末期に向けて利用者が心穏やかに最後を迎えられるかを 家族とともに支援している。	利用開始時に事業所として出来ること・出来ないことを説明している。看取り経験が豊富で、医師・家族・事業所が連携し、チームとして支援する体制を整えている。	看取り後のカンファレンスについて、全職員への周知・伝達態勢の充実に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に 急変や事故発生時の応急手当や初期対応を 地域の消防署の協力を得て受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	三宅消火器点に定期的に依頼し、消防署の定期査察において不備がないかチェックして頂き、防災に心がけています。年に2回利用者とは避難訓練をおこなっています。	年2回、避難訓練を実施している。訓練時の地域の参加要請について検討している。消火設備の設置確認や使用方法を実践している。	訓練に消防署の参加を要請するなど、内容の充実に期待します。

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を払い、声掛けや援助の際、ほんにんの気持ち、状況を考えて支援を行なっています。	利用者が出来ることはなるべくやってもらう方針であり、自尊心を尊重しつつ、傷つけないケアに努めている。また、役割を持って仕事をしてもらっている。耳の間こえに応じた声かけ等の工夫もしている。	トイレに置いてある替え下着の記名について、より細やかな配慮に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思表示を行なって頂く様に声掛けしています。意思表示の難しい利用者には表情を見ながら声掛けし支援行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意思を尊重し、食事・臥床・離床・入浴を行なうように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時等には更衣し 洗顔し、歯磨き、整髪したりして必要時は介助し、「綺麗になりましたね」と声掛け支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人個人の状態を把握し、水分摂取食事が偏らない様に注意する。飲み込みの悪い利用者には、補助食品や嗜好品で補って 栄養バランスを考えています。	朝は職員が手作りし、昼と夜は法人内の厨房で作ったものを配食している。献立に利用者の希望を取り入れたり、行事食や仕出しを頼んだりする等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の健康状態に合わせ 食べやすい様にメニュー形態を工夫し摂取して頂き、水分摂取時にむせ込まれる方には誤嚥の無い様にトロミ剤を使用してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個人個人の口腔状態を把握し、食後、臥床、離床時に口腔ケアをして頂き、必要時介助し、利用者と一緒に口腔ケアを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンをチェックし、定期的に声掛け誘導し排泄出来るように支援しています。夜間は、トイレトイレが困難な利用者にはPTイレを用意、オムツ使用で定期的に点検交換しています。	見守りと声かけにより、昼間は利用者の半数がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりに応じた対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを排泄チェック表を見ながら把握し、水分摂取を促し、便秘時には状態に合わせて主治医に処方してもらっている下剤を服用、排便出来るように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日をチェックし、順番に入浴して頂いていますが、体調に合わせて、本人の意思を確認して入浴して頂く様にしています。拒否をされたら入浴日を変えたりと柔軟に対応しています。入浴の出来ない方は清拭、足浴等をして対応しています。	週2～3回、入浴支援を実施している。時間は状況に応じて柔軟に対応している。ユニットを越えた介助の支援態勢もある。嫌がる人については、声かけや曜日の変更等に対応し、清潔の保持に努めている。	全ての職員が安心して入浴介助の出来る体制・環境づくりに期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ体調を見ながらリビングに出て来て頂き、レクリエーションに参加して頂いたり、簡単な手作業をして頂き生活のリズムを整える様にしています。昼寝をしたり主治医の処方の眠剤を服用している方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用を個別の薬配ケースに配布、職員が常に把握できるようにしています。服用時には本人に手渡し確実に服用出来ているか確認しています。自分で服用出来ない利用者には服用を支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な手作業(おしぼりたたみ・洗濯たたみ・ゴミパック作り)で、出来る事をお願いし、感謝の気持ちを伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望で家族と外出をされる事を楽しみにされている方には、続けていける様に家族にお願いしています。天気の良い日には、体調を見ながら散歩やドライブに誘い、気分転換を図っています。	事業所の周囲や近くの遊歩道を散歩したり、野菜の収穫等で日々外出している。困難な場合は、事業所の前で、おやつを食べたり、歌を歌うなどしている。また、家族の協力を得て、花見等に出かけたりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が出来ない人が多く、ご家族から預かり 事務所で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話したり、手紙を出したいと希望をされた時はやり取りが出来る様に支援しています。プライバシーが守られるように居室で、ご家族とお話出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなどドアに目印を表示したり、転倒防止の為に照明確保に努め、室温に配慮し快適な空間づくりを心がけています。リビングはゆったりとした広さがあり、行事写真や季節飾りを工夫しています。	居間と廊下は広くて明るく、音・光等が適切に管理され、空気の淀みもない。観葉植物を置いたり、壁には利用者や家族の作品・写真等を飾り、生活感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル、椅子、ソファを配置して自由に寛げるようにしています。お茶の時間やレクリエーションは好きな場所で楽しめる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には表札を揚げ、ご自分の部屋を確認出来る様に目印にしています。壁には写真や手作りの壁掛けを掛けています。ベットやタンスは利用者の希望や要望に合わせて使いやすい位置に配置しています。	居室ごとに洗面台が設置され、利用者の利便性に配慮している。鉢・雑誌・テレビ・携帯電話等が持ち込まれ、各利用者のらしさが出ている部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、玄関や手摺のスロープ化を実施しています。ホーム内も安全に移動出来る様に、ゆったりとした見通しの良いスペースになっており、車椅子でも自力での移動も安全に出来、職員も見守りしやすい間取りになっていますが、障害物が無い様に配慮しています。		